

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro

オペラパレス | 4 回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1786 年5月1日 ウィーン・ブルク劇場

作 曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本：ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

演目選定にあたって

オペラを語る上で、神童モーツァルトは絶対不可欠であり、その代表作である『フィガロの結婚』は欠くことができません。この作品は2003年ノヴォラツスキー芸術監督就任第1作としてプレミエを迎えたプロダクションで、段ボールが散乱した箱状の真っ白な空間をモノトーンの衣裳をつけた歌手たちが動きまわるアンドレアス・ホモキの演出は、モーツァルトがこの作品の中で歴史上具体的な関係ではなく、人類の普遍的な問題について問いかけていることに注目し、秩序の崩壊というコンセプトを打ち出しました。ドラマが進行するにつれ、この“非歴史的”舞台空間は徐々に壊れ、歌手たちが身につけている社会的地位の差を表わす衣裳もなくなって、社会的因習を排除したピュアな人間性を生き生きと描き出しています。アンサンブルの演技は、細部にまで裏付けられた構成で、オペラファンに限らず演劇ファンにも楽しめる完成度の高い舞台の誕生だと、広く話題を巻き起こしました。

作品解説

世界中のオペラハウスで上演され続けているモーツァルト不朽の名作。フランス革命時代の作家ボーマルシェによる政治風刺劇3部作の中の第2話を原作としたオペラで、第1作目はロッシーニ『セビリアの理髪師』に、第3作目はミヨー『罪ある母』と、それぞれオペラ作品に姿を変えています。台本は、モーツァルトとの共同作業で名高いダ・ポンテの手によるもので、この名コンビによる『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』はモーツァルト作品の中でも傑作といわれています。原作の内容が、当時の貴族の腐敗ぶりを才智ある庶民がやり込めるという風刺劇だったために、上演許可取得の可否が危ぶまれましたが、世渡り上手のダ・ポンテが皇帝ヨーゼフ2世に巧みに働きかけ、1786年ウィーンで初演。モーツァルト自身がチェンバロを弾きながら指揮をし、アンコールのために上演時間が倍になるほどの成功を収め、その後のプラハ公演では爆発的ヒットとなりました。舞台上では貴族から庶民まで様々な階層の人物が次々と登場し、当時の芝居の三単一の法則にしたがって、丁丁発止の人間模様が1日の出来事として描かれています。聴き所も枚挙にいとまがなく、喜劇にいざなう軽快な序曲にはじまり、ケルビーノのアリア〈自分で自分がわからない〉〈恋とはどんなものかしら〉、フィガロのアリア〈もう飛ぶまいぞ、この蝶々〉、伯爵夫人の絶唱〈楽しい思い出はどこへ〉や、第2幕と第4幕のフィナーレを飾るアンサンブルも圧巻です。

あらすじ

もとは理髪師で今はアルマヴィーヴァ伯爵の召使いフィガロは、伯爵夫人の小間使いスザンナと今日結婚式を挙げることになっている。初夜権（宮廷の主人は、その召使いの結婚の際花婿に代わって初夜を共にできるという権利）をひとたび放棄したもののスザンナに気がある伯爵はその復活を企んでいる。一方、伯爵夫人は、夫の冷めゆく愛を嘆いている。そこで夫人、フィガロ、スザンナが結託して伯爵の鼻を明かそうと企む。恋する思春期の小姓ケルビーノをスザンナの衣裳で女装させて伯爵をおびき出そうとするが失敗。一方、フィガロに横恋慕の女中頭マルチェリーナはフィガロに借金返済が無理なら自分と結婚するよう強要し裁判となるが、フィガロがマルチェリーナの子であることが発覚。一転して喜びの再会となる。次に夫人とスザンナはお互い衣裳を換えて、伯爵の浮気現場をおさえようと画策。事情を知らないフィガロはこれに一時混乱するが直ぐに理解し解決する。伯爵はまんまと引っかかり、夫人に平謝りして全員喜びの大団円となる。



2007年公演より

W.A. モーツァルト

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	ミハエル・ギュットラー
Conductor	Michael Güttler
演出……………	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas Homoki
美術……………	フランク・フィリップ・シュレスマン
Scenery Design	Frank Philipp Schlössmann
衣裳……………	メヒトヒルト・ザイペル
Costume Design	Mechthild Seipel
照明……………	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck Evin

アルマヴィーヴァ伯爵……………	ロレンツォ・レガッツォ
Il Conte Almaviva	Lorenzo Regazzo
伯爵夫人……………	ミルト・パパタナシュ
La Contessa	Myrtò Papatanasiu
フィガロ……………	アレクサンダー・ヴィノグラードフ
Figaro	Alexander Vinogradov
スザンナ……………	エレナ・ゴルシュノヴァ
Susanna	Elena Gorshunova
ケルビーノ……………	ミハエラ・ゼーリンガー
Cherubino	Michaela Selinger
マルチェリーナ……………	森山京子
Marcellina	Moriyama Kyoko
バルトロ……………	佐藤泰弘
Bartolo	Sato Yasuhiro
バジリオ……………	大野光彦
Basilio	Ono Mitsuhiko
ドン・クルツィオ……………	加茂下 稔
Don Curzio	Kamoshita Minoru
アントーニオ……………	志村文彦
Antonio	Shimura Fumihiko
バルバリナーナ……………	九嶋香奈枝
Barbarina	Kushima Kanae

合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus

管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/10 (日) 2:00 10/16 (土) 2:00

10/13 (水) 2:00 10/19 (火) 6:30

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2010.6/12 (土)

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：ミヒャエル・ギュットラー

Conductor : Michael Güttler

ドレスデン生まれ。ヴァイオリン、トランペット、ピアノおよび合唱指揮を学んだ後、カール・マリア・フォン・ウェーバー音楽大学で指揮を学ぶ。数多くの指揮者コンクールで優勝。パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、フェニーチェ歌劇場などで活躍。2002年よりマリインスキー劇場の常任客演指揮者。楽劇『ニーベルングの指環』『トリスタンとイゾルデ』『アイダ』『椿姫』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ルチア』など幅広いレパートリーを誇る。今後の予定としては、ハンブルク州立歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』と『道化師』、パリ・シャンゼリゼ劇場で『チェネレントラ』、などがある。10年には『リゴレット』と『セビリアの理髪師』でウィーン国立歌劇場にデビュー予定。その後、同歌劇場で『ナブッコ』も予定されている。新国立劇場初登場。



演出：アンドレアス・ホモキ

Production : Andreas Homoki

ドイツのマール生まれ。1987年から92年までケルン歌劇場でアシスタント・ディレクターを務める。ジュネーヴ歌劇場1992/1993シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収める。その後、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、ネザーランド・オペラ『ルル』などヨーロッパを中心に活躍。2002/2003シーズンからベルリン・コームィッシュ・オーバーの首席演出家に就任し、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』などを取り上げ話題となった。新国立劇場では03年『フィガロの結婚』、07年『西部の娘』を演出した。



アルマヴィーヴァ伯爵：ロレンツォ・レガッツォ

Il Conte Almaviva : Lorenzo Regazzo

ヴェネツィア生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。モーツァルトとロッシェニを得意とし、『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・アルフォンソ』『ドン・ジョヴァンニ』『レボレッロ』『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『チェネレントラ』アリドーロなどで好評を博している。今後、バイエルン州立歌劇場で『イタリアのトルコ人』『コジ・ファン・トゥッテ』、ベルリン・ドイツ・オペラで『チェネレントラ』、英国ロイヤルオペラで『ドン・ジョヴァンニ』、メトロポリタン歌劇場で『オリー伯爵』などに出演予定。新国立劇場には2007年『フィガロの結婚』に出演。



伯爵夫人：ミルト・パパタナシウ

La Contessa : Myrtò Papatanasiu

ギリシャのラリサ生まれ。テッサロニーキ音楽大学卒業後、ミラノで研鑽を積む。これまでにバイエルン州立歌劇場、モネ劇場、ローマ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、ボローニャ歌劇場などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』『ドンナ・アンナ』『コジ・ファン・トゥッテ』『フィオルディリージ』『フィガロの結婚』伯爵夫人、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『椿姫』ヴィオレッタ、『道化師』ネッダなどをレパートリーとする。今後、ローマ歌劇場とダラス・オペラで『椿姫』、ベルリン州立歌劇場とネザーランド・オペラで『フィガロの結婚』などが予定されている。2011年には『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでウィーン国立歌劇場にデビュー予定。新国立劇場初登場。



フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

フィガロ：アレクサンダー・ヴィノグラードフ

Figaro : Alexander Vinogradov

1976年モスクワ生まれ。物理と数学を学んだ後にモスクワ音楽院で学ぶ。数多くのコンクールで優勝。弱冠21歳でボリショイ劇場デビュー。以来ベルリン州立歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場、ラヴィニア音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』レボレッコ、『魔笛』ザラストロ、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『イタリアのトルコ人』セリム、『カルメン』エスカミーリョ、『アイダ』ランフィス、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『三つのオレンジへの恋』チェリオ、『エレクトラ』オレストなどをレパートリーとする。今後の予定としては、英国ロイヤルオペラで『皇帝の花嫁』、ベルリン州立歌劇場でドン・バジリオとエスカミーリョ、ミラノ・スカラ座でエスカミーリョなどがある。新国立劇場には2007年『カルメン』エスカミーリョで出演している。



スザンナ：エレナ・ゴルシュノヴァ

Susanna : Elena Gorshunova

ロシアのヘルミ生まれ。モスクワのグネーシン音楽アカデミーで声楽を学ぶ。2002年よりマリインスキー劇場のソリストとして数多くの作品に出演。他にもワシントン・オペラ、マドリッドのレアル劇場、カナダのケベック・オペラなどに登場。『リゴレット』ジルダ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『カルメン』フラスキータ、『ばらの騎士』ゾフィー、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどをレパートリーとする。2010/2011シーズンより、ザクセン州立歌劇場の専属歌手として、ジルダ、コンスタンツェ、パミーナなどを歌う予定。新国立劇場初登場。



ケルビーノ：ミヒャエラ・ゼーリンガー

Cherubino : Michaela Selinger

オーストリア出身、ウィーンで声楽を学ぶ。2005/2006シーズンよりウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍。他にもチューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭のほか、ベルンやエッセンでも出演。『フィガロの結婚』ケルビーノ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ、『こうもり』オルロフスキー公爵などを歌っている。今後の予定としてはウィーン国立歌劇場で『ばらの騎士』オクタヴィアン、ケルビーノ、リヨン歌劇場で『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭などがある。新国立劇場初登場。

